taiwa
THE ACADEMY OF HOSPITALITY

京都ホテル観光ブライダル専門学校

観光DX　インタビュー集

「観光DX × ホスピタリティ」を学び、現場で活かす。
教員・連携企業・学生のインタビューを収録。

CONTENTS

01　**観光DX × 就職**　藤 寛薫（就職部 次長）

02　**観光DX × アナログ**　株式会社Gns　渡邊 高行・油小路 和貴

03　**観光DX × 実践**　小東 真夜（ホテル学科 2年生）

04　**KYOKAN Heartful Campus Wedding**　プロジェクトメンバーの声（佐久間 咲月・浦井 菜月）

発行

学校法人大和学園　京都ホテル観光ブライダル専門学校

〒604-8006　京都市中京区河原町三条上ル　／　https://www.kyoto-carriere.ac.jp/

本資料は『観光DX まるわかりブック』（令和7年度 文部科学省「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」成果物）に掲載されたインタビュー記事を抜粋したものです。

観光DX × 就職

観光DXをどのように身につけ、実際の仕事でどのように活用するのか聞いてみました。

デジタルを武器に
感動を創造できる人材を育てます

学校法人大和学園　京都ホテル観光ブライダル専門学校

藤 寛薫　就職部 次長

2014年大和学園入職。ホテル・旅行・ブライダルなどのホスピタリティ分野、調理・製菓分野における学生募集チームでマネージャーを務め、幅広い分野の学生支援に携わる。現在は就職部次長として、学生と企業をつなぐマッチング支援やキャリアサポートに尽力している。

好奇心を持ってデジタルスキルを身につける

「デジタル」と聞くと、特別な知識や才能が必要だと思う方も多いですが、その多くは誰でも使えるツールです。学ぶ意欲と機会があれば、誰でも十分に知識やスキルを身につけ、スキルアップできます。実際、入学直後はデジタル技術に対して苦手意識があった学生たちも、授業で学んで使っていくうちに、その便利さを実感することが多く、中には実生活で活用している学生もいます。デジタルスキルを身につけるには、好奇心が一番重要かもしれません。

『観光DX × おもてなし』で新しい価値をもたらす人材に

デジタル技術は、あくまで「おもてなし」と「人の心を動かす力」を最大化するためのツールだと考えています。国際観光都市でもある“おもてなしの都・京都”にある本校は、『観光DX × おもてなし（ホスピタリティ）』を教育の柱に掲げ、観光業の本質である「人と人とのふれあい」を重要視しています。DXによって業務を効率化し、そこで創出された時間や人的資源をお客様への質の高い接客へつなげるのはもちろん、地域や旅行者に新しい価値をもたらす人材になってほしいと考えています。

観光DXでまだ見ぬ『感動』を創造し自分の市場価値も高める

デジタルとホスピタリティを学び、スキルを身につけることで、「観光業界の課題を解決できる人材」として自分自身の市場価値を高めることができるでしょう。人手不足などの課題の解決やお客様の利便性向上など、観光DXの専門知識とスキルは今後ますます需要が高まると予想されており、ホテルや旅行会社、地方自治体、観光関連のIT企業など、幅広い分野での活躍を可能にします。本校で観光DXを学び、デジタルという「武器」を手に、観光のプロフェッショナルを目指してみませんか？

観光DX × アナログ

デジタル知識を学ぶことで得られる効果や活用方法について聞いてみました。

生成AIを相棒にして おもてなしの価値を高める

株式会社Gns

渡邊 高行 代表取締役社長

京都生まれ京都育ち。高校時代から25歳まで俳優として活動したが、父親の病を機に引退し、フリーランスエンジニアとして働く。2020年に株式会社Gnsを設立。

株式会社Gns

油小路 和貴 CBO

実家は寺でありながら、中学・高校・大学をキリスト教系の学校に進学。卒業後は営業職を志望し、銀行に就職する。のちに仏教を学び、実家の副住職を務めると同時に株式会社Gnsにて勤務。

関西の中小企業に“ちょうどいい”DXを

渡邊さん：我々は京都を拠点に、中小企業様のデジタル化支援や、企業様向けのAI研修などを行っています。現場でお困りごとを直接ヒアリングし、提案することにこだわり、関西の企業様に限定している点が特徴です。特定のサービス導入を目的とせずに、GoogleやMicrosoftなど身近なツールを使ったデジタル化をご提案しています。

油小路さん：「ちょうどいいDX」を信条に、それぞれの企業様に合った仕組みづくりを、伴走しながら二人三脚で進めている会社です。

DX × 専門知識でおもてなしの向上を

渡邊さん：DXでバックオフィス業務などを効率化して生まれるのは、時間や心の余白です。この余白で、人にしかできない「おもてなし」に、より力を注げる環境をつくることができると考えています。

油小路さん：その余白で所作の美しさや、より細かなサービスが向上していくのではないでしょうか。また、人のもつ専門知識とAIは相性がとても良いです。AIの膨大な一般知識と、人が培った専門知識の組み合わせには大きな可能性があることを、多くの企業様の事例で見てきました。

人とデジタルをつなぎ改善できる人材に

渡邊さん：皆さんが社会に出たとき、上司は当たり前にアナログ業務をしているかもしれません。そのとき、専門知識と経験を活かし、アナログ世代が“何に”困っているのかを理解して、人とデジタルの間をつなぐことができる人材になってほしいです。

油小路さん：デジタル技術を知っているということは、今後間違いなくアドバンテージになります。そして、デジタル知識と専門知識を兼ね備えていれば、きっと今までにないイノベーションの種が手に入るでしょう。

「知らなかった」を知り自分に合ったAIをつくる

渡邊さん：私たちの授業では、まずはAIを使ってみて、少しずつ理解を深めてほしいです。そして、最終的には「自分に合ったAI」をつくることをしていただけたらいいなと考えています。

油小路さん：「知らなかった」ということを知ってほしいですね。なんとなくAIを使うのではなく、“何のために使うのか”を、自分の言葉で説明できるようになってほしいと思っています。

デジタルネイティブもアナログを理解してほしい

油小路さん：学生の皆さんは操作を感覚的に理解できるようですね。吸収も早く、「これがデジタルネイティブか」と驚いています。

渡邊さん：デジタルツールは今後絶対に必要ですが、アナログの知識も大事。「便利だから」という理由だけでデジタルに頼るのではなく、人が手間をかける意味や価値を学んだ上で、デジタルと掛け合わせ、さらなる相乗効果を生み出していくことを、私たちも期待しています！

観光DX × 実践

デジタルスキルをどのようにして身につけたのかを聞いてみました。

実践で学べるので
自然とデジタルスキルをマスターできました

学校法人大和学園　京都ホテル観光ブライダル専門学校
小東 真夜　ホテル学科 2年生　（高知県私立土佐塾中学・高等学校出身）

サービスだけじゃない 幅広い知識が学べる

入学のきっかけは、ホテルの宴会サービスでのアルバイト経験を通してホテル業界に興味を持ったことです。入学当時は、サービスのクオリティを高めるための授業が中心だろうと想像していました。でも実際は、就職してから必要になる経理などの授業があったり、ホテル学科に在籍していてもブライダルについて学べたりと、幅広い知識を得ることができました。また、「使わなくてもよい」とすら思っていたDXについて学び、「使ったほうがよい」と価値観が変わったことは大きな成果です。

現場の生の声が聞ける 専門的な授業も魅力

観光DX関連はもちろん、どの授業も講師は実務経験のある方ばかりで、ご自身の経験を活かしたカリキュラムを用意してくださっています。教科書には書かれていない、現場の経験から得た知識も惜しみなく教えてもらえるのは、この学校ならではでしょう。経験に裏付けられたお話はわかりやすく、信頼感が持てる点も魅力です。また、先生方は近すぎず、でも遠すぎない距離感を保ってくださっているので、わからないことがあればすぐに質問できる安心感があります。

“デジタル”が苦手な人こそ、楽しく身につく観光DX

入学前、パソコンやデジタルツールは、自分とは縁遠く感じるものでした。でも、DX演習で実践的に学んだ結果、今では日常生活でもAIを使ってみようと考えるほどになりました。AIやVR、Canvaなどを実際に使って、少しずつステップアップしていくことで、楽しく効率的に身についたと感じています。使ってみると意外に楽しいので、僕自身が“デジタル”に苦手意識を持っていたからこそ、今不安を感じている人には、「まず、やってみて！」と言いたいですね。

DXを学んだからこそ接客だけじゃもったいない

DXを学んだ今、デジタルツールを使えることは僕の強みです。入学前は、接客をすることしかイメージできていませんでしたが、今はデジタルスキルを活かして事務職も経験したいと考えています。できればさま

ざまな部署で経験を積み、多様な考え方や価値観を身につけたうえで、どこへ行っても「この人なら」と信頼される人間になりたいです。

対話ができる大和学園で多くの知識と価値観を学ぶ

学生の中には、世代が違う人や留学生が大勢います。でも、それが当たり前であり、文化や価値観が違う人たちが和やかに集まり、つながっている学校です。学生同士はもちろん、先生と学生の距離感もほどよいと感じています。とても居心地がよく、もしかしたら「大和学園」の“たいわ”は、「対話」に通じているのかもしれないと考えるほどです。

Project Member's Voices

KYOKAN Heartful Campus Wedding プロジェクトメンバーの声

リアルな現場体験 × デジタルスキル活用。実際に結婚式を予定している新郎新婦を公募し、学生主体で学校内施設に結婚式を創り上げるプロジェクト「KYOKAN Heartful Campus Wedding」に参加した学生たちの声を紹介します。

パーティー担当

佐久間 咲月 ブライダル学科 プランナー・スタイリスト専攻 2年生／滋賀県立彦根翔西館高等学校出身

ホスピタリティ精神とDXで「任せたい」と思われるプランナーに

学生だからと甘えることなくプロ意識を持ってお客様と真摯に向き合い、期待を超える結婚式を作ることを目標に頑張りました。もちろん経験不足な面はあったと思いますが、2年間一緒に学んできた仲間と一緒だからこそ、気軽に相談しながら進められる点は、学生ならではの強みです。デジタルデザインは、簡単にクオリティの高いデザイン制作が可能なことに加え、豊富なテンプレートを通して数多くのデザインに触れ、多くの刺激を受けられる点でもメリットを感じました。今後は便利なデジタル技術を活用しつつ、お客様はもちろん、一緒に働く人たちへもホスピタリティ精神を忘れず、仕事に取り組みたいと思っています。そして、プランナーとしてだけでなく、人として「この人に仕事を任せたい」と思ってもらえる存在になりたいです。

ウェディングプランナー担当

浦井 菜月 ブライダル学科 プランナー・スタイリスト専攻 2年生／京都府立久御山高等学校出身

お客様を笑顔にするホスピタリティとDXを武器にして信頼される仕事を

KYOKAN Heartful Campus Weddingでの結婚式を選んでくださった新郎新婦に、「絶対に笑顔で帰ってほしい！」と思いながら頑張りました。お打ち合わせでもお二人の表情をよく見て、少しでも楽しく過ごしていただけるよう積極的に発言することを心がけました。各担当の進捗確認や困りごとは、スマホやデジタルツールのおかげでお互い視覚的に把握でき、助け合いが生まれるきっかけになったと感じています。動画編集などのデザインスキルが必要な場面ではCanvaのテンプレートを活用して、高いクオリティでお客様に合ったものを作ることができました。この経験は今後の私の武器にしていきたいです。AIに奪われることのないホスピタリティ精神を存分に発揮して、信頼されるプランナーになりたいと思っています。